

# 効果的なリハビリ導入に向けてのケアマネジメントを考える ～前回の課題からアンケート調査を実施～

和歌山県 竹村医院居宅介護支援事業所 介護支援専門員  
○和田 麻由

## 【はじめに】

リハビリを効果的に利用するために、昨年の研究大会で報告した課題 ①動機づけ ②導入時期 ③リハビリ職と介護支援専門員の連携の3点について、リハビリ職、介護支援専門員の意見を聞き、検証したので報告する。

## 【方法】

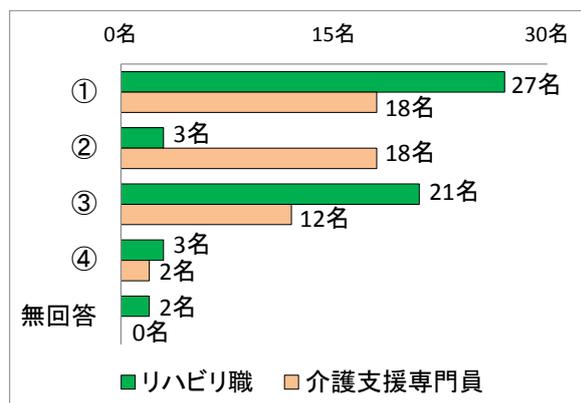
平成26年4月～平成26年9月 継続して訪問看護ステーションから理学療法士等による訪問を利用している利用者50名について、担当の理学療法士9名、作業療法士5名、介護支援専門員9名にアンケート調査を実施

## 【結果】

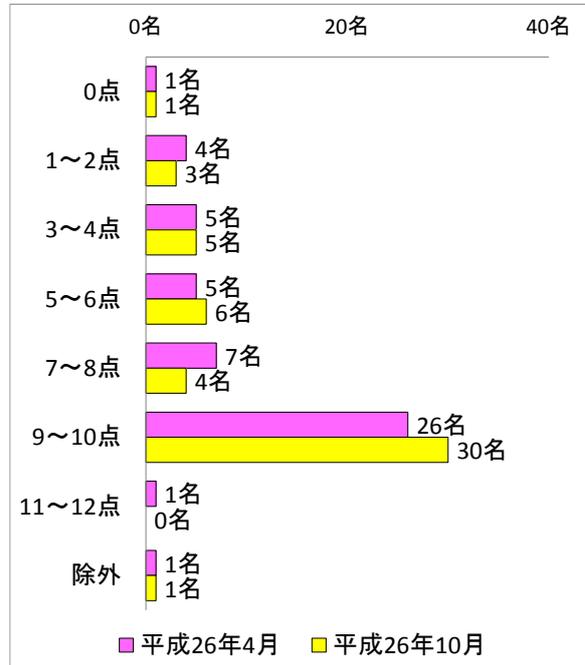
回答数 リハビリ職 56 介護支援専門員 50

### 動機づけについて

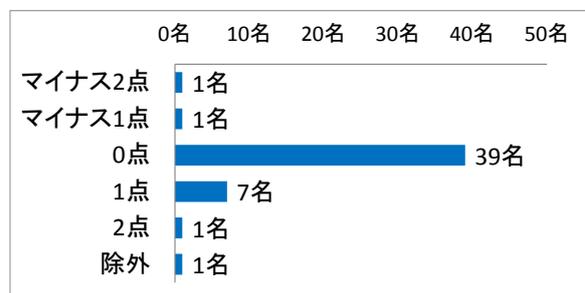
- ・担当している利用者のリハビリ意欲
- ① 関わり当初から意欲的であった
- ② 意欲的でなかったが、工夫をすることで意欲が出た
- ③ 関わり当初から意欲がなく、現在も意欲的でない
- ④ 関わり当初は意欲があったが、現在は意欲的でない



## ・意欲の指標 (平成26年4月・10月) ※



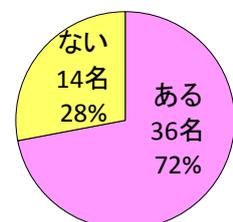
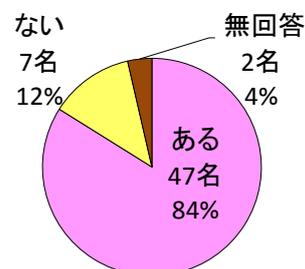
## ・意欲の指標 変化(平成26年10月)



## ・意欲を引き出すために工夫していること

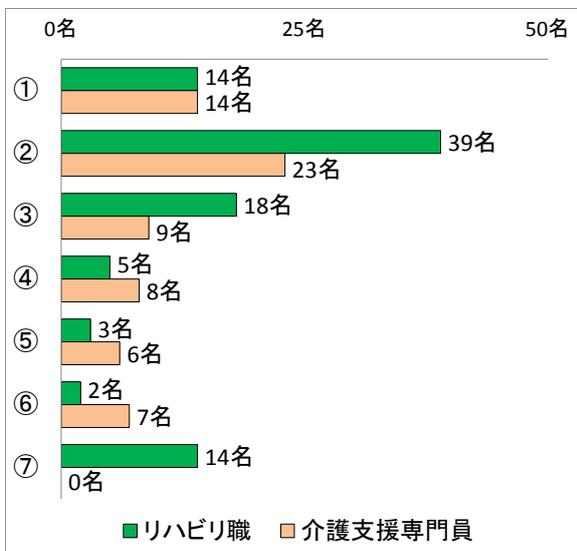
〈リハビリ職〉

〈介護支援専門員〉

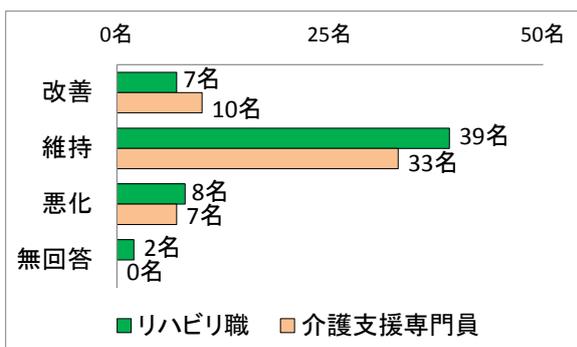


・どのように意欲を引き出す工夫をしているか  
(複数回答)

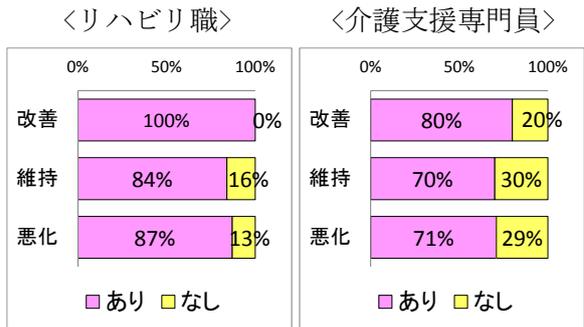
- ① 目標達成感を実感してもらえるよう、利用者に分かりやすい具体的な目標を設定する
- ② やる気になる声掛けや適切な褒め方をする
- ③ 短所より長所、できた部分を捉える
- ④ 自発性を尊重 課題を自分で設定し実行できるような働きかけ
- ⑤ 興味のあることを探り、自主リハビリへつなげる
- ⑥ どのように生活が改善するのかイメージできるようにする
- ⑦ その他(苦痛の緩和、本人の希望に添う等)



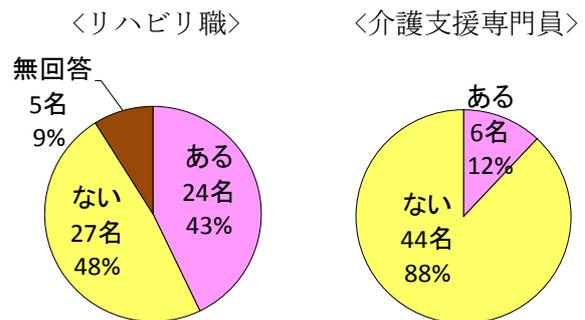
・平成26年4月に比べると改善はみられるか



・改善 維持 悪化別に意欲を引き出す工夫をしているか



・動機付けで困っていること



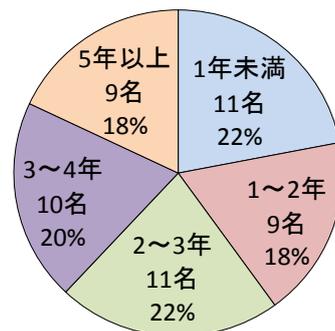
・動機づけで困っている内容

	リハビリ職	介護支援専門員
理解力低下・意思疎通困難	9名	2名
性格的に難しい依存が強い	7名	1名
疾病や痛みが伴っている	4名	
その他	3名	1名
家族の協力が得られない	2名	
本人が希望していない	1名	2名

リハビリ導入時期について

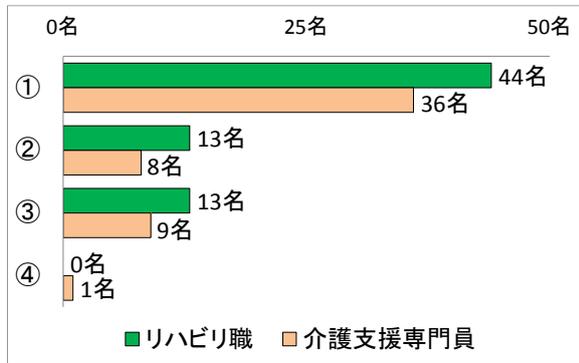
・リハビリ開始してからの期間

(平成26年10月時点)



・リハビリ開始時期について(複数回答)

- ① 退院直後など、早い時期に導入していた方が効果ができる
- ② 本人が希望したときが導入時期
- ③ 家族や周囲の人が必要と感じたとき
- ④ その他

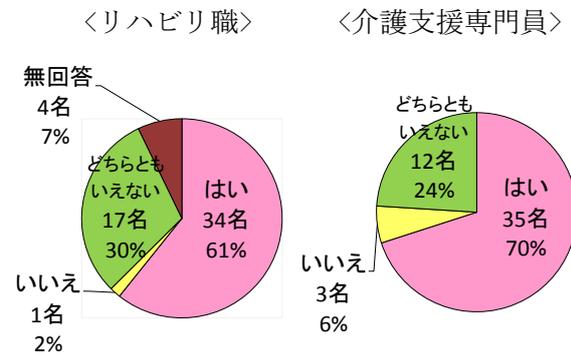


・介護支援専門員へのアドバイス

リハビリ導入の目的や訓練内容を明確にする  
 早期にリハビリを導入することで身体機能やADLの低下を予防する  
 導入が遅くなるほど効果や回復が遅れてくることを伝える

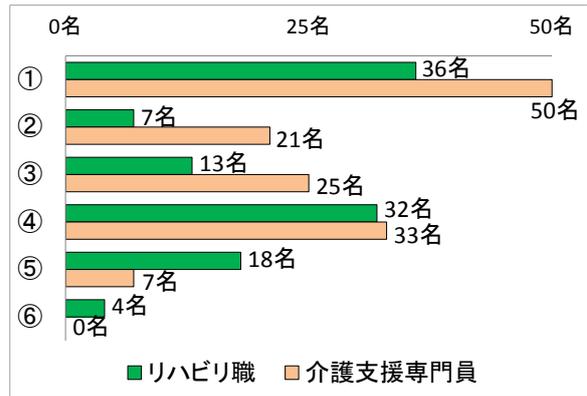
連携について

・担当している利用者について連携は図れているか

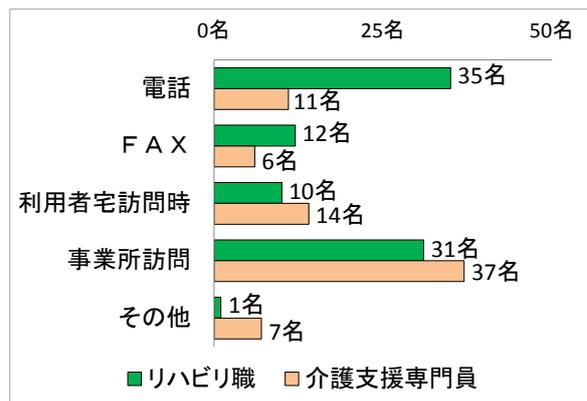


・どのようなときに連携を図るか(複数回答)

- ① 利用者の状態変化時
- ② 目標の変更が必要になったとき
- ③ サービス内容の変更が必要になったとき
- ④ 訪問回数や訪問時間の変更が必要になったとき
- ⑤ 状態変化に関係なく
- ⑥ その他



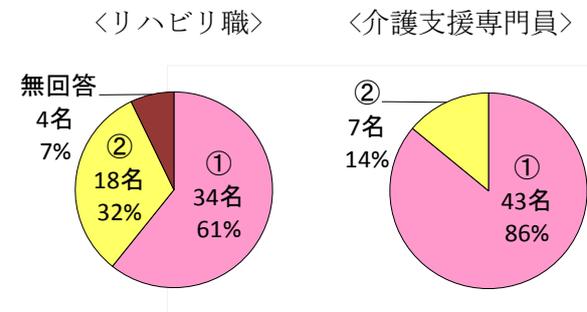
・連携の手段(複数回答)



・計画書について

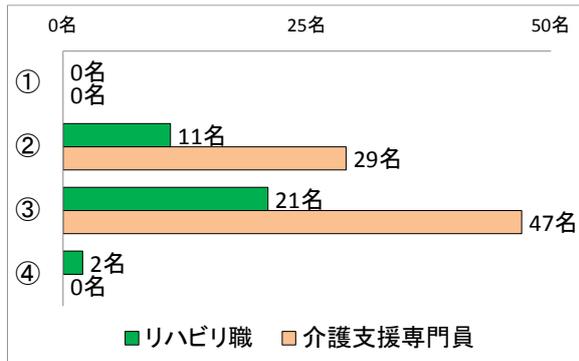
介護支援専門員はケアプランを作成する場合、リハビリ職の意見は参考にしているか。  
 リハビリ職はリハビリ計画を作成する場合、ケアプランを参考にしているか。

- ① 参考にした
- ② 参考にしていない



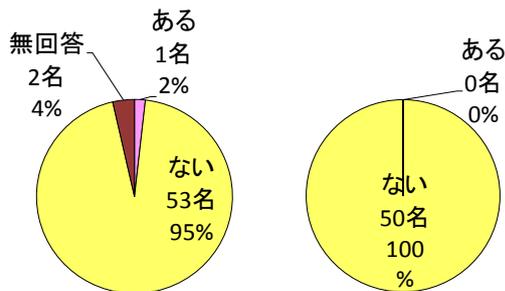
・各々の計画に相違がある場合は(複数回答)

- ① そのままにしておく
- ② サービス担当者会議を活用し、相違のないように話し合う
- ③ リハビリ職と相談し、すりあわせを行う
- ④ その他



・連携で困っていること (ある ない)

〈リハビリ職〉 〈介護支援専門員〉



・今後連携を良くするために(自由回答)

連絡、相談の時間をもち、お互いに話しやすい関係づくり

リハビリ実施時に介護支援専門員が訪問し実施状況を確認する

【考察】

結果より、リハビリ職の 84%、介護支援専門員の 72%がリハビリ意欲を引き出す工夫をしており、特にリハビリ職においては実際のリハビリ場面での声掛けや褒め方を工夫していることが分かった。また、改善 維持 悪化別にみると、リハビリ職が改善と評価した全員が、介護支援専門員が改善と評価した 80%が意欲を引き出す工夫をしている。意欲如何でリハビリや治療の進み具合を左右することもあり、サービスを提供する側からの動機づけ、やる気になる声掛けは非常に重要である。言葉によって勇気づけ、モチベーションを上げていくために、リハビリ職、介護支援専門員は「褒めること」や「承認すること」等言葉がけの技術を身につけることが必要と思われる。

リハビリ導入時期については、リハビリ職で

は 44 名、介護支援専門員では 36 名が「退院直後など、早い時期に導入していた方が効果がでる」と回答しており、早い時期でのリハビリ導入の必要性を感じていることが伺える。「退院後の 3 ヶ月で生活は変わる」と言われているように、リハビリ如何により、生活機能が変化することを介護支援専門員は十分認識し、リハビリ導入の必要性を見極め、計画を立てることが求められる。

計画作成時、リハビリ職では 32%、介護支援専門員では 14%が各々の意見や計画書を参考にしていないとの回答があった。リハビリ職と介護支援専門員は、利用者や家族がリハビリに何を期待しているのかを把握し、リハビリの目的や目標、内容を明確にすることが不可欠である。その為にもリハビリ職にもサービス担当者会議への参加を呼びかけ、情報を共有する場をつくる必要がある。今後、連携を図っていくために、状態に変化がなくても、普段から情報交換を行い、連絡方法についても、あらかじめサービス担当者会議等で話し合っておく必要がある。また介護支援専門員は、リハビリ職が訪問しているところへ訪問し、実際のリハビリの様子や利用者の表情を確認しておくことが、連携を図るうえでも重要であると思われる。

【結論】

- ・意欲を引き出すために、「褒める」「承認する」技術を身につける。
- ・生活機能を維持、改善させるためにリハビリ導入時期を見極める。
- ・介護支援専門員は実際のリハビリの場面に立ち会い連携を図る。

【参考文献】

- ・「介護支援専門員の医療的ケアの知識向上のためのテキスト」日本介護支援専門員協会
  - ・最上輝未子著「看護師のためのコーチングハンドブック」心育研
- ※鳥羽研二監「高齢者総合的機能評価ガイドライン」厚生科学研究所 102 頁より引用